

英語②【中学校】

表現する力を培う

学力調査の結果より

自然な会話の流れの中での、様々な応答の仕方について、授業中に積極的に取り扱い、身に付けさせる必要がある。

★発話を受けての応答文を選ぶ問題

- ① 設定通過率 65% → 通過率 39.1%
- ② 設定通過率 65% → 通過率 43.5%

★指導のポイント★

- 1 基礎的・基本的な学習内容の理解と定着をねらい、積み重ねを重視する
- 2 生徒の柔軟な発想を生かした表現活動を取り入れる

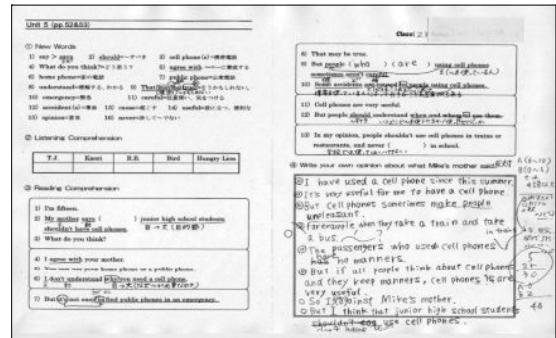
基礎的・基本的な学習内容の理解と定着をねらい、積み重ねを重視する

英語による表現力を高めるには、語彙や文法等に関する知識の習得が必要である。

そこで、基礎的・基本的な学習内容の理解と定着を図るために、以下の①～③を含んだ学習プリントを作成する。

- ① 新出単語の意味
馴染みの薄い既習語も含んだもの
- ② 練習問題
目標文に関する理解を深めるもの
- ③ 本文の内容に関する質問等
英語または日本語での質問

特に③については、時には生徒自身に英語での質問を考えさせ、それを用いた対話練習や自問自答に結び付ける。この学習活動を継続すると、既習事項を用いて質問を考えるだけでなく、辞書を使ったり教師に尋ねたりして独創性のある質問を考える生徒が育つ。



また、授業はじめの"Warm-up Question"も効果的である。これは、2人1組になって、お互いのことについて口頭で行うQ & A活動だが、教師が質問を決める場合と生徒自身に自由に考えさせる場合がある。質問項目や内容を自由にすると、英語学習があまり得意でない生徒も前向きに取り組む。

さらに、文型練習や本文の暗唱、あるいは目標文を用いた対話練習といった学習活動も、基礎的・基本的な学習内容を定着させる上で効果的である。

生徒の柔軟な発想を生かした 表現活動を取り入れる

ある程度英語学習が進んだ時点で、以下のような、生徒の柔軟な発想を生かす表現活動に取り組みせると、生徒の表現する力が伸びる。

① “What (Who) am I?”

英語学習が不得意な生徒を考慮して2人以上で考えさせたり、日頃から辞書を使わせたりしていると教師も思いつかないような問題を考える。

ex) I am white.

I am tallest and biggest lady in the world.

Many people see me for sightseeing.

※ I live in New York. (原文のまま)

この活動を“クイズ大会”形式で行うと盛り上がる。その際、Final Hint (ここでは※印の文)の前と後で正解を言った場合に点差をつけるのも一つの工夫である。

② 英文日記

日常のことや学校・学年行事のことについて書かせることがよくあるが、夏休みの課題としても可能である。

使えそうな英文や表現をプリントにまとめておくと生徒は活用しやすい。

評価する際に、プリントにない英文や自分の思い等を書いた英文を認めることで、生徒の柔軟性・積極性を引き出すことにつながる。

③ オリジナル・ストーリー作り

②の応用として、与えられた絵の内容についてストーリーを考え、英文で書かせる表現活動である。知恵を絞ってストーリーを考えたり、適度にユーモアを交えたりする生徒もいる。英文の主語は一人称でも三人称でもよいとする。

なお、この表現活動に使う絵は英検の過去問題等が参考になる。

④ オリジナルスキット作り

ペアあるいはグループで、既習の表現を使ったスキット作成と発表に取り組む。A

L Tの訪問時に行ったり、発表の様子をビデオ撮影し他のクラスで紹介したりすると励みになる。



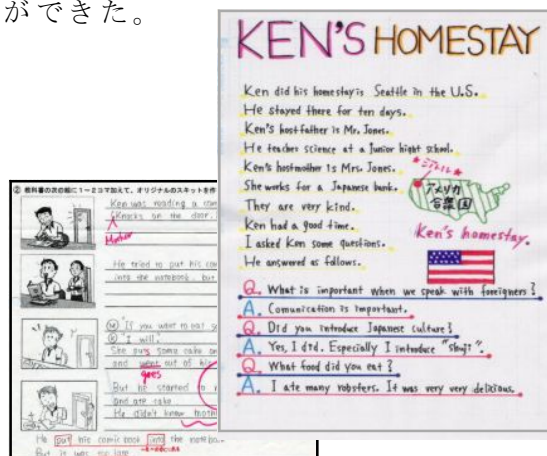
また、発表原稿を最終的に「文集」等にすると、生徒の学習の成果を目に見える形で残すことができる。

⑤ カベ新聞作り

教科書にある内容を発展させた表現活動である。自分が新聞記者になったという設定で、様々な人物へのインタビューと、それに対する答えを自分で考えて書くという活動である。

質問に対する答えが教科書等にはない場合は、創造性や柔軟な発想を生かして自分で答えを考えることになり、生徒によってはより積極的に英文を考える活動となる。

最終的には、各自がB4判用紙1枚にまとめて廊下に掲示した。生徒は互いの「新聞」を熱心に読み、多くの表現にふれることができた。



表現活動は、目標文の一部を自分自身のことについて置き換えるという単純なものから、数時間かけて取り組ませるものまで多様である。

生徒の柔軟な発想を生かした表現活動は、能動的な学習であることから、英語学習に対する興味・関心を一層高めることにもつながる。